

## (様式 1 - 表)

## 令和 7 年度 特色ある学校づくり推進事業 計画書

学校番号	66	豊田市立 明和小 学校	代表	宇井 一弘
------	----	-------------	----	-------

※分野【a：国際交流・国際理解、b：地域連携、c：自然体験、d：環境教育、e：学力向上、f：交流体験、g：福祉・ボランティア、h：伝統文化、i：その他（ ）から選ぶ。

テーマ	ふるさとに学び、心豊か生きる「WE LOVE 明和」		分野	b	地域連携
	サブテーマ 明和のよさに気づき伝えよう		i(その他) は分野を右欄に記入		
学校づくりの視点（ねらい）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが住んでいる地域に目を向ける活動を通して、地域のひと・もの・こととふれあい、身近な環境と自分たちとのつながりや「ふるさと明和」のよさを知るとともに、ふるさとに愛着をもつ子どもを育てる。</li> <li>・地域講師招へいによる全校和太鼓活動や栽培活動などを通して、地域の方が学校に寄せる思いを知り、情意面での充実を図る。</li> <li>・心の相談員による相談活動を通して、悩みや困りごとを早期発見、早期解決に努め、安心安全な学校づくりをする。</li> <li>・校内整備員による環境整備を通して、教育活動を行うために安全で快適な環境を整える。</li> </ul>				
活動内容・計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画を作成する。生活科や総合的な学習の時間との関連を図る。 (4月)</li> <li>・地域講師による指導を受けながら、野菜やブルーベリーの栽培活動を進めるとともに地域への情報発信を行う。 (4月～2月)</li> <li>・社会科や理科、生活科と関連させ、自然環境を保護する活動や住みよい暮らしについて考える。 (5月～2月)</li> <li>・学校周辺や身近な自然環境の中で学ぶことを通して、ふるさと明和の現状を知り、今後の発展を考え、広く発信していく。 (5月～2月)</li> <li>・福祉教育の一環として、障がいやお年寄りの疑似体験を通して、自分たちにできることを考え実践する。 (5月～2月)</li> <li>・地域講師による指導を受けながら、全校和太鼓活動に取り組み、初釜の会で積極的に発表する。 (5月～2月)</li> <li>・定期的な教育相談や日常的な教育相談において、心の相談員の活用を図る。 (4月～3月)</li> <li>・教育環境の充実において、校内整備員の活用を図る。 (4月～3月)</li> </ul>				
補助員配置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心の相談員</li> <li>・校内整備員</li> </ul>				
実績・期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のひと・もの・ことに関する学習を毎年積み重ねていく中で、子どもたちは、地域の方々の「ふるさと明和」に対する思いを感じるとともに、学校や自分たちのことを大切に思ってくださっていることに感謝する気持ちが芽生えた。</li> <li>・低学年は、地域講師に教えていただきながら栽培活動を行い、作物を育てる大変さと収穫の喜びを体感した。また、栽培した作物を使って、焼き芋をはじめ、調理をして味わった。</li> <li>・中学年は、主に福祉教育を実践し、中でも地域性を考えて、お年寄りの疑似体験を行ったり、介護について地域講師から話を伺ったりしながら、自分たちにできることを考え実践した。また、これまで行ってきたブルーベリー栽培を受け継ぎ、地域講師から施肥や剪定の仕方を教わりながら活動した。</li> <li>・高学年は、地域の山林での活動を通して、環境保全の大切さを学び、また、間伐体験を通して、その大変さも学ぶことができた。そして、地域の方々の思いも感じながら、自分たちにできることを考え、発信することができた。</li> <li>・低・中・高学年ともに、学習のまとめの発表会を実施し、そこにお世話になった方を招待し、思いを色紙にして感謝の意を伝えることができた。</li> <li>・継続的な図書館司書や図書ボランティアによる読み聞かせや図書館整備、和太鼓活動を通して、豊かな感性を育むことができた。</li> <li>・心の相談員に子どもたちの様子を見たり話を聴いたりしていただくことで、子どもたちが安心して生活できる一助となった。</li> <li>・学校運営協議会で、学校、地域との連携の進め方、具体的な活動内容等について話し合っていたいただき、地域学校共働本部が、具体的な活動の計画やボランティアの調整をいただいている。</li> <li>・ホームページを更新（令和6年度は計41回）し、それぞれの取組を紹介した。</li> <li>・学級通信で、その都度、内容や成果について写真や子どもたちの声を掲載しながら具体的に紹介した。学校だよりでは、主に全校での取組について紹介し、学区の全戸に配付した。</li> <li>・ホームページや学校だより、学級だよりなどで、活動への参加呼びかけや取組の様子、成果などを発信することで、本事業へ理解をいただいている。令和6年度の学校評価では、特色ある学校づくりの項目は、前年度に比べ、教員が0.7ポイント、保護者が0.1ポイントそれぞれ上昇した。</li> <li>・授業参観で、特色ある学校づくりの推進事業に関わる公開授業を行った。（全クラス）</li> <li>・子どもたちがふるさと明和に学び、そのよさに気づき、そのよさを伝えながら、心豊かに生きることを期待する。</li> </ul>				
検証方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動時や活動後の児童の様子から、児童の「ふるさと明和」についての思いをつかむ。 (発言・作品・記録・つづき・表情等から)</li> <li>・活動への参加の呼びかけ、取組の様子や成果などを積極的に発信する。 (HP更新随時、学校だより月1回、学級通信隔週1回、保護者会年1回、PTA役員会年4回、学校運営協議会年6回)</li> <li>・学校自己評価や保護者アンケートの結果と保護者の声を発信する。 (3月)</li> </ul>				